「珠洲市観光振興プラン」策定にあたっての提案活動

団体名● Major Study Seminar Ⅰ(Sasage)／代表者名●捧富雄(人文学部国際文化学科・教授)

はじめに

捧の専門ゼミナールⅠは、観光による地域振興をテーマとして活動を行っており、珠洲市関連では2015年度に、国土交通省が実施した全国の「道の駅」を対象とした大学との連携事業に参加し「珠洲市観光振興調査報告書」をまとめた。一方、珠洲市においては、2021年度に観光振興計画の策定を予定している。

こうした背景の下で、今年度はゼミの学生が、新型コロナウィルスの世界的流行や2019年までの訪日外国人旅行者の増加などの社会環境の動向および珠洲市の観光の現状などを考慮した上で、若い世代の学生であるという立場を踏まえ旅行者誘致などのための戦略プラン(案)について提案を行うことにした。

この調査研究活動により、学生に対しては、

①論理体系の一種である計画の過程を学ぶとともに実際に調査を含む計画策定を体験することにより様々な調査能力や論理的な思考について学ぶ

②実際のフィールドにおいて調査研究を行うことにより、講義などで学んだことを体験的に応用して学修意欲を高めるとともに知見を向上させる

③地域の中で活動することにより、学内では接触する機会が少ない世代や属性の人びととの交流機会となり、立場の違う人々の考え方や価値観を学ぶ

④地域貢献活動に参加することにより、地域への誇りが高まり、地域人材の育成に寄与する

などの効果を達成するとともに、地域に対しては、

①観光振興プラン作成にあたり、地域内では不足しがちな若い世代の考え方や志向を取り入れた基礎資料を得る

②地域の中で学生が活動することにより地域の方々にとって、通常の生活の中では接触する機会が少ない世代との交流機会となり、刺激を受けて生活に変化をもたらす

③学生が市内のことなどについて調査研究することにより、住民の視点では気が付かない対象地域の魅力を再発見する機会となり、住民の誇りを再生する契機となる

などをもたらすことを目標として活動を行った。

活動内容

4月からのゼミ活動を含めて、以下のような活動を行った。

(1)調査研究の準備と文献などによる資料調査

「珠洲市の社会状況」「珠洲市の観光地・人気スポット・撮影スポット」「珠洲市の行事・イベント」「地元産業・体験」「珠洲市の特産品・名産品」「珠洲市の宿泊業」の6項目について、文献やインターネットにより資料を収集して分析した。また、本学名誉教授であり、「木ノ浦ビレッジ」の相談役である澤信俊先生に地域づくりや珠洲市に関するお話を伺うなど、いろいろとご協力をいただいたき知見を広げた。

こうした活動を通じて、視察地やヒアリングの対象を選定するとともに、調査内容を検討するなどして、現地における調査研究の準備を行った。

(2)珠洲市における現地調査・アンケート調査

夏季休暇中の8月24日(月) ～27日(木)の3泊4日で、珠洲市および周辺地域の視察を行うとともに、珠洲市観光交流課を含めて市内12か所の関係者にヒアリングを行った。また、珠洲焼作家や飯田高校生に対するアンケート調査を依頼し、9～10月に郵送などでアンケート調査を行った。

市内の視察やヒアリングを行った(須須神社)

(3)石川県内における関連事例調査

珠洲市の観光振興策を提案するにあたり、活用する資源や類似の施設などについて、県内にある参考事例を視察・研修するための関連事例調査として、11月16日(火)に「ののいち中央公園(ののいち椿館)」、「菊姫酒造・小堀酒造」、「ゆのくにの森」、「九谷

焼窯跡展示館」・「山代温泉総湯」などを訪れ、視察研修を行った。

「九谷焼窯跡展示館」

(4)収集した資料の分析と提案の検討

後期のゼミの時間では、それまで行った文献調査、ヒアリングを含めた現地調査、アンケート調査、関連事例調査に基づいて、ＫＪ法などを用いて全体コンセプトや提案する事業の検討を行った。

成果、結果の考察

上述した活動により、本ゼミで提案する珠洲市の観光振興策の基本コンセプトを「珠洲市を自然と特産品を生かしたイベントでアピールする」と設定し、これに基づいて、

◎狼煙カフェ：大浜大豆×カフェ（「カフェいかなてて」で行う大浜大豆からできる食品を使った料理の提供）

◎キリコ祭りの振興（「石川県の大学生に協力を要請し、担ぎ手として祭りに参加してもらう」・「地域の子供たちにキリコに関するイベントに参加してもらい、キリコ祭りを通して観光に関心を持ってもらう」）

◎珠洲焼イベント（「器×花をテーマとした展示ブースの設置」・「器×酒をテーマとした地酒試飲会及び珠洲焼物販コーナーを開催」）

の3つのプロジェクトを提案することにした。

こうした調査研究活動の結果報告を、当初は珠洲市においてお世話になった方々に声をかけて報告会を開催する予定だったが、コロナの感染拡大や珠洲市でモニターツアーを実施する時期に重なるなどの事情で日程調整がつかず実施を見送った。ただし、2月18日に本学で開催された「地域連携活動報告会」において、学生がそれぞれの提案内容などについて報告を行った。

以上のような活動の成果として、現地での報告会を実施していないこともあり、地域に対する効果がどの程度あったかの確認はできなかった。しかし、現地調査のヒアリングでの意見交換において、「参考になった」という言葉をいただいたこともあり、若干でも地域に貢献できたのではないかと思われる。また、学生にとっては、学外で立場の違う人々の意見を聞いたり、いろいろな方法で調査したことに基づいて自分たちの意見をまとめていくという作業を体験したことにより、論理的に考えることの基本を理解したり、社会に対する知見を広げることが出来たと考えている。

今後の課題、展望

今年度の特殊要因として、新型コロナ禍によってゼミ活動が大きく制限され、前期は大部分の回数が遠隔授業となり、お互いの意見を出しながら議論するなどの共同作業としての活動がほとんどできなかった。また、珠洲市を訪れたのも現地調査１回だけで、予備調査や補足調査、現地での報告会が実施できなかった。とはいっても、年度初めにもっとしっかりと準備を整えることなどによって、より充実した活動や成果を行うことができたのではないかという反省もあり、それをどのように進めるかが今後の課題である。

なお、学生が「論理的思考」の基本を体得したことなどで、今後のさまざまな活動に役立つのではないかと期待している。